

式 辞

厳しい寒さの冬も去り、吹く風もいつしか柔らかく、春のいぶきを感じる今日の佳き日、たくさんの保護者の皆様にご臨席賜り、卒業証書授与式が挙げてきますことを、たいへんうれしく思います。

本来であれば、在校生、ご来賓の皆様のもと、式を行うところですが、特別な対応となってしまったことに、ご理解をいただきたいと思ひます。

さて、小学校六年間の課程を修了し、須賀小学校を巣立ちゆく二十五名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうござひます。

皆さんとは1年間、学校生活をともにし、様々な思い出があります。中でも、令和元年10月25日、修学旅行の2日目だったこの日のことを、私は一生忘れないと思ひます。

台風から変わった低気圧の影響を前日の夜から心配してひました。雨はどれくらい降るのだろう。班別行動をどうしよう。担任の鈴木教諭と相談しました。班別行動を中止にするという選択肢もありましたが、計画してきたことを少しでも実行し、子どもたちに自信をつけさせたい。時間を短くして班別行動を実施する。そう決めました。

雨の中、それぞれの班が大仏を後にしました。そして、集合時刻の午後3時。鶴岡八幡宮の鳥居前に、全員無事に集まりました。安心しました。しかし、千葉県内の主要な道路が通行止めになっているという情報が入りました。通れる道路は大渋滞。バスはなかなか進まない。まわりは暗くなる。お腹もすいてきた。トイレにも行きたくなつた。いったい何時になれば到着するのだろう。

そんな泣きたくなるような状況の中での皆さんの姿に、私はどれだけ元気づけられたことでしょうか。皆さんはずっと元気にカラオケを楽しんでひました。友達のうたう歌を一緒に口ずさみ、拍手を贈り、誰一人文句を言わない。不安な顔も見せない。

結局、夜中の1時近くに到着しましたね。保護者の皆さんが迎えに来てくれてひました。「学校は何をやってひたんだ」という声が聞こえてきてもおかしくない場面で、「ありがとうございました」「お世話になりました」と口々にして帰って行く保護者の皆さん。6年生の皆さんはこのようなお家の方に育てられてきたのか。バスの中で皆さんが落ち着いてひた理由がよくわかりました。

修学旅行の際には、ご心配・ご迷惑をおかけしたことを、この場をお借りして、改めて、お詫び申し上げます。

卒業していく皆さんに、私が大切にしている言葉をひとつ贈ります。「失敗は成功のもと」という言葉です。

失敗すると、恥ずかしいですよ。人に迷惑をかけてしまうこともあります。だから、失敗はしないに超したことはありません。でも、いくら失敗しないように心がけていても、誰にでも失敗はあります。

失敗したときに、その失敗にどう向き合うかで、その人の人生が大きく変わると、私は思います。言い訳をしたり、人のせいにしたりして、失敗から逃げたのでは、何も生まれません。また同じ失敗を繰り返し、軽蔑されることになるかもしれません。失敗しても、何が悪かったのだろうと考え、工夫していけば、次はうまくいくかもしれません。

私は、失敗したときにこう考えるようにしています。

「せっかく失敗したんだから。」

こう考えると、失敗をマイナスからプラスにすることができます。

「失敗は成功のもと」です。

一度しかない人生です。卒業生の皆さん、失敗を恐れず様々なことに挑戦してみましよう。

また、他人の失敗を自分のものにしてください。まわりの人が失敗しているのを見たら、自分はどうだろうかと振り返り、同じような失敗をしないようにしましよう。

さらに、過去の失敗から学びましよう。どうして戦争が起こったのか、どうして公害が発生したのか。過去のことを学びましよう。そして、今の社会はどうなっているのか、ニュースを聞きましよう。学習をしましよう。それをもとに、過去の失敗を繰り返さないために、これからの社会をより良くしていくために、自分たちはどうすればよいのか考えていきましよう。

他人の失敗や、過去の失敗も「成功のもと」です。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きなランドセルを背負い、入学してから六年。今日までのことを振り返ると感慨もひとしおのことと思います。

心身ともに大きく成長する中学時代。たくましきを増す反面、ちょっとしたことで自信をなくしてしまう時期でもあります。広い視野から見ることができず、まちがった判断をしてしまうこともあります。まだまだ、家族の応援を必要としています。保護者の皆様の温かいご支援のもと、大切なお子様が心優しく、立派に成長されますよう願っております。

結びに、私が初めて校長として送り出す卒業生25名 それぞれの未来が、
輝かしいものであることを願って、式辞といたします。

令和二年三月十四日

匝瑳市立須賀小学校 校長 角田 直彦